

学校名	山口県立山口高等学校
-----	------------

## 1 学校の概要

校長名	川野 あきら	生徒数	全 953 定 59 通 1,437 分 67	学級数	全 24 定 4 分 3	教職員数	100
教育目標	<p>校訓『至誠剛健』 この上ない誠実さ（真心）と心身の強さと健やかさをもって、何事にも積極的に取り組み、将来に向かって、力強く生き抜く力を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 道義心の高揚・・・(徳育)</li> <li>2 実力の養成・・・(知育)</li> <li>3 健康の増進・・・(体育)</li> </ol>						
学校の状況	<p>我が校の歴史は、江戸時代の文化12(1815)年に創設された私塾山口講堂が、山口明倫館の時期を経た後、明治3(1870)年に改称されて山口中学となったことに始まり、平成22年で創立140周年になる。</p> <p>本校と分校があり、生徒数は2,500人を超える大規模校である。本校は、全日制（普通科、理数科）、定時制（普通科）、通信制（普通科、衛生看護科）の三つの課程からなる。また、本年度から完全分校化となった徳佐分校には普通科が設置されている。</p> <p>本・分校や各課程により違いはあるものの、多くの生徒は、学校生活を前向きに送っている。特に、本校全日制は、県下で屈指の進学実績を誇っており、ほとんどの生徒は大学等への進学を目指して学習に意欲的に取り組むとともに、学校行事や部活動等、授業以外の面でも積極的に活動しており、「文武両道」を見事に実践している。地域の学校として期待を担っている徳佐分校は、生徒数は少ない中、様々な進路目標に対応したきめ細やかな指導を行っており、生徒は地域との交流も行いながら、勉強に、また行事等に一生懸命に取り組んでいる。</p>						
SWOT分析による長所・短所	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 管理職間の連絡は日常的かつ円滑に行われている。</li> <li>○ 教職員は協力的である。</li> <li>○ 教職員間の連携・調整に対する意識の醸成が図られている。</li> <li>○ P T Aが協力的である。</li> </ul> <p>【短所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大規模校であり、複数の課程と分校とが設置されている。</li> <li>○ 本・分校間での教職員の日常的な交流の機会が少ない。</li> <li>○ 本・分校の教職員の年齢構成等に違いがある。 分校は中堅教職員が少ない。</li> <li>○ 分校は、校長が不在であることが多い。</li> <li>○ 分校の教頭の決裁権に制約がある。</li> </ul>						
研究テーマ	本校と分校の連携による円滑な学校運営						

## 2 1年間の実践研究の取組状況

[校内委員会、協議会、検討会、アンケート実施等の時期や内容]

5月	・第1回学校運営検討会議（5月31日（月）） 円滑な学校運営に向けての協議Ⅰ「組織的な学校運営に関する実践研究のプランニング」
6月	・第2回学校運営検討会議（6月14日（月）） 円滑な学校運営に向けての協議Ⅱ「本・分校間の情報共有の課題」
8月	・第3回学校運営検討会議（8月24日（火）） 円滑な学校運営に向けての協議Ⅲ「本・分校の現状分析と取組の課題」
9月	・第4回学校運営検討会議（9月22日（水）） 円滑な学校運営に向けての協議Ⅳ「本・分校間の情報共有と取組の調整」
	・第5回学校運営検討会議（9月28日（火）） 円滑な学校運営に向けての協議Ⅴ「本・分校間の情報共有と具体的取組」
11月	・第6回学校運営検討会議（11月29日（月）） 円滑な学校運営に向けての協議Ⅵ「本・分校間の取組の課題と対応」
1月	・第7回学校運営検討会議（1月6日（木）） 円滑な学校運営に向けての協議Ⅶ「本・分校間の情報共有と取組の調整」
	・第8回学校運営検討会議（1月18日（火）） 円滑な学校運営に向けての協議Ⅷ「本・分校間の取組の調整と今後の課題」

## 3 実践研究の内容と成果

### (1) 組織力の強化に係る取組

#### ア 機能的、機動的な組織づくり（資料1）

組織力の向上のためには、それぞれの教職員のもつ多用な能力を活かし、効率的・一体的な学校運営体制を確立することが必要であるという視点から、次のような取組を進めた。

##### (ア) 教頭の役割分担の明確化

本校全日制に2人、定時制、通信制、分校に各1人の計5人の教頭がいるが、各人の役割分担を次のようにすることで指揮・監督システムを明確化し、学校運営体制の強化を図った。

- 本校全日制第1教頭
  - ・本校の各課程及び分校の校務の総括・調整
  - ・全日制の教務部、進路部、総務部、理数科の分掌業務を担当
- 本校全日制第2教頭
  - ・文書の本校各課程及び分校への振り分け
  - ・全日制の生徒部、環境保健体育部、情報企画室の分掌業務を担当

※校内委員会についても、担当分掌にもとづき第1・第2教頭の間でそれぞれ主担当を決めている。

- 本校定時制教頭
  - ・定時制の校務全般を担当
- 本校通信制教頭
  - ・通信制の校務全般を担当
- 徳佐分校教頭
  - ・分校の校務全般を担当
  - ・毎日定時に校務の状況等を本校第1教頭に報告

(イ) 分校教頭の校務の確認

車で往復2時間と、距離的に離れている分校において、効率的な業務の遂行を図るため、校長に代わって分校教頭が行うことのできる業務について協議をし、整理を行った。(資料2)

(ウ) 校務分掌業務の一体的遂行

組織力を向上させ、迅速で的確な業務遂行のため、本校の全・定・通の各課程及び分校において教務部、生徒部、進路部を共通の分掌とし、協働化を図った。業務の遂行に当たっては、様々な面で本校全日制の分掌主任が中心となって連絡・調整を行い、学校として一体的な取組に努めて、積極的に連携を進めた。

全日制の他の分掌についても、必要に応じて定・通や分校と連携・協力を進めた。

【成 果】

○ 5人の教頭間の情報交換が活発化し、協働して業務遂行に当たろうとする意識が醸成され、業務遂行に当たっている。

○ 本校の各課程及び分校の分掌相互の連携が進み、一体的な業務遂行が行われるようになった。特に教務部、生徒部、進路部については、平素から緊密な連絡体制の構築に努めるようになった。

教務部：新教育課程に関する情報交換、入学者選抜に関する計画立案、道徳教育等に関する研修・情報提供、各種報告に関する連絡・調整等

進路部：大学の推薦入試の情報提供、大学の推薦枠の調整

生徒部：あいさつ、身だしなみ指導に関する情報交換、各種調査に関する連絡・調整等

総務部：学校要覧の内容調整、教職員研修に関する取りまとめ、卒業証書授与式等の学校行事の連絡・調整等

情報企画室：ネットワーク運用に関する情報交換

○ 本校の各課程及び分校間の調整や各課程内での校務の効率的遂行を図る中で、分掌主任が学校運営の一翼を担うという意識を強めるとともに、分掌の構成員に対する的確な指導助言に努める姿勢が醸成され、リーダーとしての資質向上が進んだ。

○ 同一の分掌間等での情報交換や調整が活発に行われる中で、担当者の多くに各課程間及び本・分校間の円滑な学校運営、業務遂行に対する前向きな意識が醸成された。

【課 題】

○ 管理職間の連携強化に向けての体制の改善

○ 各教頭の業務内容をまとめた年間計画の作成と協働体制のさらなる充実

○ 分掌業務の遂行方法の見直しと具体的方策の検討

○ 本校の各課程及び分校間の分掌主任による連絡会の開催

○ 本校の各課程及び分校の分掌相互の連携体制のさらなる活性化

○ 入学者選抜等、本・分校が協働して取り組まねばならない業務の円滑実施に向けた方策の改善

(2) ICTの活用等による情報共有、業務改善に係る取組

ア 学校運営検討会議における円滑な学校運営に向けた協議等

校長、全・定・通・分校教頭、事務長をメンバーとする学校運営検討会議を開催して綿密な連絡調整・協議を行い、一体感をもって組織的、効率的な学校運営に努めることとした。

この会議においては、学校運営上の課題の明確化とその解決に向けた具体的な方策の検討、進捗状況の確認等を行うなど、全管理職間の情報共有を進め、共通理解のもとで円滑な学校運営に向けた組織的な協働体制が取れるようにした。

## イ 情報のさらなる共有化に向けた工夫

約40kmの距離を隔てた本・分校間の情報伝達・共有を効率的に行うことは、円滑な業務遂行を進める上で解決を図らねばならない不可避の課題である。

### (ア) 適切な文書管理

基本的には、電子県庁やy s n 2 1を活用しているが、分校の教頭等が定期的に本校へ来校し、紙媒体による決裁案件等のやりとりや連絡・調整に当たることとしている。なお、本・分校間に共通する決裁については、原則として本校において施行するようにしている。

### (イ) 新たな情報伝達・共有システムの構築 (資料3)

既存のICTシステム(y s n 2 1)を活用して、我が校独自のシステムの構築を行った。これには強固なセキュリティが三重に施されており、我が校の全・定・通・分校間のみ情報のやりとりに限定することができ、非常に安全性の高いものである。

### (ウ) 管理職間の情報共有

本校においては、校内サーバに管理職専用フォルダを設置し、管理職同士の情報のやりとりに活用している。

また、管理職のスケジュール・ファイルをそのフォルダ内に設け、7人の管理職の動静を一元的に管理している。このため、分校教頭は定期的に分校関係のスケジュールを電子データで本校に連絡することとしている。

---

## 【成 果】

- 学校運営検討会議を通して、全・定・通・分校間で適切にスケジュール調整等を行うとともに、行事等を円滑に実施することができた。また、管理職間での情報の交換・共有がスムーズに行われ、学校運営上の諸課題を整理して対応策を明確化することができた。
- 各分掌においては、文書の收受から施行にかけて、全・定・通・分校間で連携を取りながら進めており、学校全体を見渡そうという分掌主任の意識が高まったことから、業務の効率化や一体的な業務遂行が進んだ。
- 本・分校間の共有フォルダの構築により、迅速な情報共有が可能になり、本・分校の分掌の連携に役立っている。
- 全ての管理職の動静を一元的に管理し容易に確認できることで、円滑な学校運営に繋げることができた。また、業務を遂行する上で、管理職相互の情報把握が容易になった。

## 【課 題】

- 時宜に応じた効果的な学校運営検討会議の開催に向けた管理職間の日程調整(校長の出張等が多い)
- 学校運営上の課題と新たな方向性の検討
- 新たな情報伝達システムの効果的な活用の検討
- 分校への文書等のより確実な伝達・送付方法の確立

## (3) 地域やPTAとの連携、外部人材の活用に係る取組

### ア 地域の多様な教育力の活用

SWOT分析からすると、我が校は地域の期待が大きく、地域の方、保護者、同窓会といった学校を取り巻く様々な関係者・機関等の理解、協力が得られやすく、PTAも協力的であるという大変恵まれた人的環境にある。こうした地域の教育力を有効に活用した取組を進めつつある。

#### (ア) 地域人材の活用

学校評議員会や学校関係者評価委員会は、本校の全・定・通及び分校の関係者を委員としており、それぞれの立場から、我が校の在り方について貴重な指摘をいただく機会としている。

また、地域の方々の協力を得ながら、例えば次のような様々な教育活動を行っている。

教職員研修（キャリア教育、人権教育等）、各種講演会等での講師  
山高健康の日（保護者の会、教職員の会、生徒の会）における講師  
総合的な学習の時間の大学研究における卒業生招聘  
分校のアップル・プランにおける地元事業所でのインターンシップ

#### (イ) P T Aとの連携

保護者の学校に対する期待・関心は大きく、例えば学校行事等において次のような積極的な協力をいただいている。

銀鐘祭（文化祭）でのゆかた着付け、バザー、喫茶  
朝の交通指導への協力

「山高健康の日（保護者の会）」への参加

「萩往還を歩く会」におけるぜんざいサービス

また、ホームページに加えて、携帯メールによる配信システムを活用することで、学校からの情報発信に努めるとともに、本年度から新たに取組の推進を図っているあいさつ・身だしなみ指導について家庭での指導を呼びかけるなど、学校と家庭の相互の協力による学習・生徒指導の一層の充実に努めている。

#### (ウ) 高・大連携

多くの生徒が大学等への進学を希望しているところから、大学との間で様々な形での交流を進めている。

理数科の先端科学特別講義や分校の進路セミナー等への講師招聘  
理数科の先端技術体験学習や3校合同セミナーでの大学見学、実験等

---

#### 【成 果】

- 様々な方の協力を得ながら取組を進めることにより、行事等の内容が充実したものとなり、学校全体の教育力の向上に結びついた。
- 生徒は、教室での普段の授業からだけでは身に付けることのできない幅広い知識等を得ることができ、物事や社会を多角的・多面的にみる能力が醸成できた。

#### 【課 題】

- 学校の周りにある地域の豊かな教育力をさらに有効に活用するための検討
- 各課程や分校のニーズにあった地域人材や保護者等の情報収集と整理
- 本・分校における教育資源の相互の活用

#### (4) その他

##### ア 教職員の一体感の醸成と資質の向上

県下最大の大規模校である我が校において、円滑な学校運営、業務遂行を進めていくには、何よりも本校の3課程及び分校の教職員の積極的な協働体制づくりが不可欠である。

このため、校務分掌業務の一体的遂行、教職員の交流の促進、行事等の合同開催等を中心に体制の強化を図った。

---

#### 【成 果】

- 本・分校間で教職員の相互交流が進んだ。  
授業公開、初任者研修等の機会を捉えての授業参観・授業研究  
本校の理科助手による分校の理科薬品の点検
- 機会を捉えて生徒の交流も行われた。  
文化祭等における生徒交流  
島根県益田市でのオペラ鑑賞への共同参加
- 学校行事等について本・分校間の統合を図り、学校としての一体感の醸成が図られた。  
本校の全・定及び分校による合同の入学式  
年度当初の合同職員会議、職員会議資料の相互交換  
学校評議員会等の合同実施

#### 【課 題】

- 分掌相互の連携を一層深め、円滑な業務遂行を進めるための協議の促進
- 校内の人材を有効に活用した相互交流の活発化
- さらなる一体感の醸成に向けた生徒や教職員の交流場面の創出
- 学校行事の効果的な統合の検討

#### 4 今後の取組内容

[実践研究の成果・課題を受けて、今後継続的、発展的に取り組む内容や課題について]

これまでの取組を踏まえながら、学校運営検討会議を中心に、「3 実践研究の内容と成果」であげたそれぞれの課題の解決に向けて検討を進め、県教委とも連携しながら円滑な学校運営を目指してさらに取組を進めていく。

特に、次のようなことについて実践的取組を図っていく。

##### (1) 組織的、機能的な業務改善

全・定・通・分校の間には、距離的な、また時間的な問題が存在し、一元的・効率的な学校運営を進める上で大きな困難材料となっている。情報の共有、共通理解を相互に図りながら、具体的な取組を進める中で業務の改善を着実に図っていく必要がある。

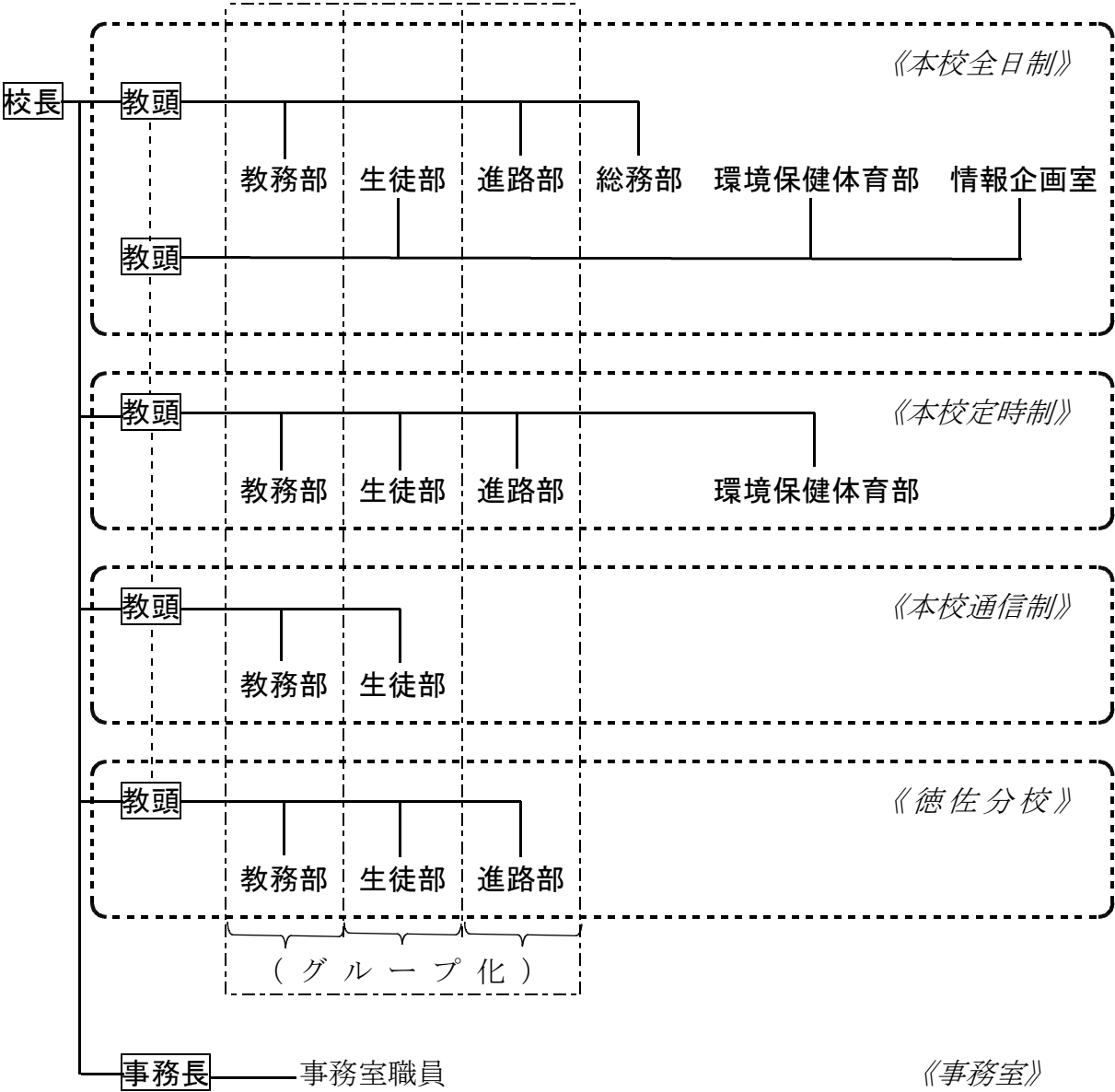
##### (2) 本・分校間の交流の深化

我が校が一つの学校としてまとめ、本校の各課程や分校の特性を生かしながら充実した教育活動を進めていくには、学校の内外にある様々な教育資源を発掘し、それを相互に提供し合い、有効に活用していくことが大切である。

##### (3) ミドルリーダーを中心とした人材育成

我が校は、単に大規模校であるというだけでなく、能力や人間性の面で優れた多くの教職員に恵まれている。こうした人材について、それぞれのライフステージに応じてさらにブラッシュアップを図る。また、組織において中心的な役割を担う分掌の主任については、副主任とともに学校運営という立場から一層の意識の醸成を図り、ミドルリーダーとしての資質の向上を進めていく。

山口高等学校組織イメージ図



## 山口高校本校と徳佐分校間の校務等の運営計画

## 【徳佐分校において校長が行う校務】

- (会議関係) 成績判定・生徒の懲戒などの決裁、推薦入学選抜会議、進路指導委員会、二次募集選抜会議、修学旅行業者選定委員会、学校保健安全委員会、教科書選定委員会など
- (行事関係) 卒業式、始業式、終業式、賞状授与式など
- (PTA関係) PTA総会、PTA役員会など
- (その他) 教職員面談、授業観察など

## 【徳佐分校において校長が行うか、もしくは分校教頭が代理する校務】

- (会議関係) 成績判定・生徒の懲戒を除く会議など
- (行事関係) 対面式、離任式、全校集会、徳佐祭、アップルプラン発表会、生徒総会、ヒョアム高校との交流会、オープンスクール、職業意識形成講習会など
- (PTA関係) PTA研修旅行など
- (その他) 地区小・中学校行事、地区民大会、野球部後援会など

## 【徳佐分校において分校教頭が行う校務】

- (会議関係) 重要案件を伴わない会議など
- (行事関係) 修学旅行結団式、全校奉仕活動、マラソン大会、体験型進路セミナー、防火訓練、クラスマッチ、卒業式予行など
- (その他) 徳佐づくり協議会、さくら祭等の地区関連行事

## 【本校において校長が行う分校の校務】

- (会議関係) 学校評議員会、学校関係者評価委員会、選抜会議など
- (行事関係) 入学式など
- (その他) 学力検査業務など

## 分校教頭による代決を希望する事項

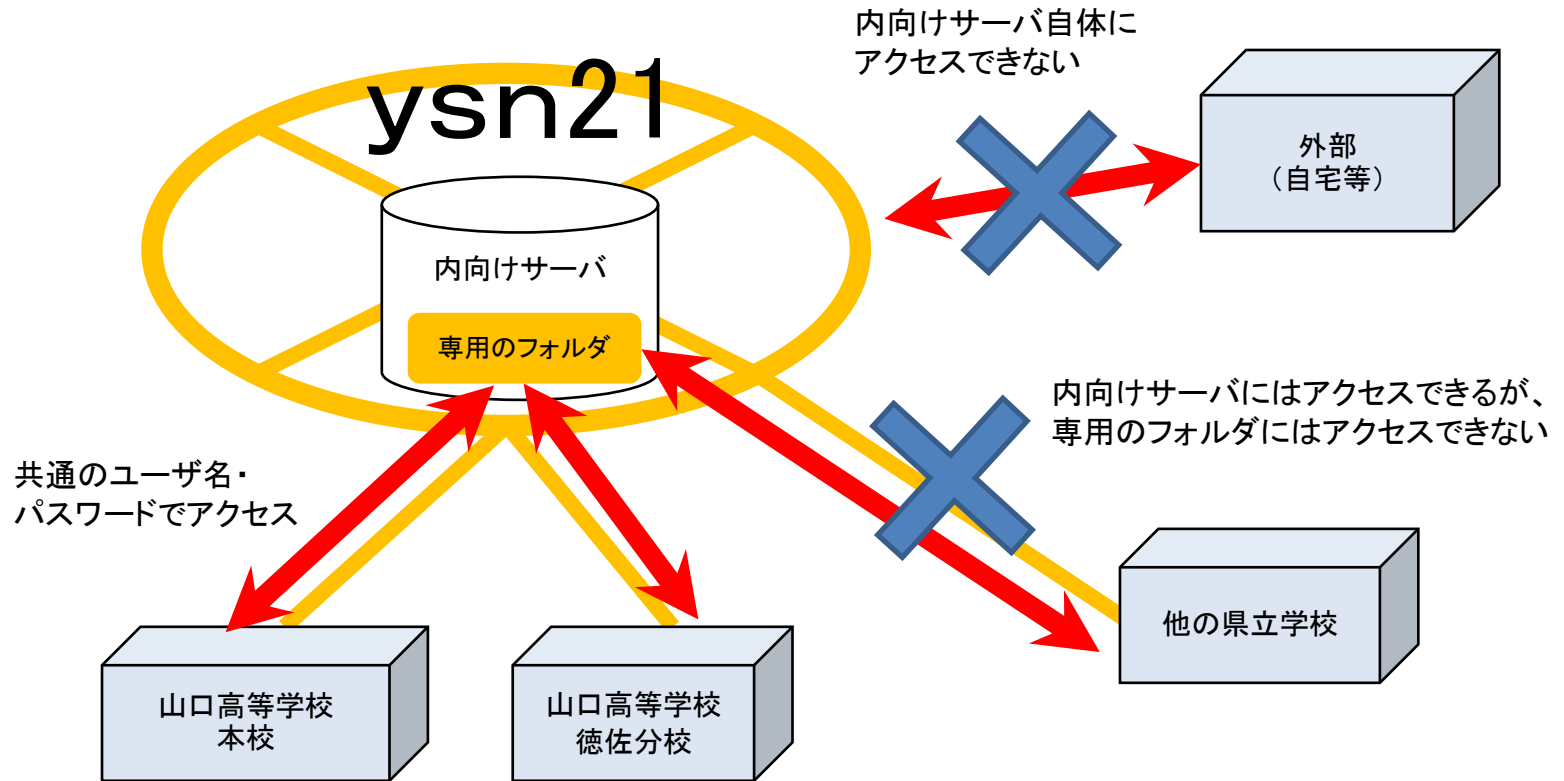
- ①各係、分掌名で出す保護者宛文書
  - (例) 進路：進路模擬試験の申込みについて
  - 保健体育：保健日より
  - 教務：徳佐校日より 等
- ②私費会計の収入・支出伺 (例年並のもの)
  - (例) 生徒会費：クラス展示用費用の支出について
- ③毎年、実施されている校内行事・校務で実施方法等に特に変更点がないもの
  - (例) スポーツテストの実施について
  - 夏の交通安全県民運動に係る交通指導について
  - 修学旅行・集団宿泊のしおり 等
- ④各種会議への出欠連絡 (担当から担当への事務連絡)
  - (例) 春季商業科主任者会議への参加申込み 等
- ⑤その他
  - 急を要するもの (礼状) 等

※分校に公印を置き、教頭の専決事項としてその管理と押印を認めることができれば、分校の業務の効率化を進めることができると思われる。



# ICTシステムのイメージ図

山口高校資料3



ysn21「外向けサーバ」は、世界中に公開しているので、誰でもアクセスできる → 「学校Webページ」として広く利用している

一方、ysn21「内向けサーバ」は、県立学校だけのアクセスに限定 → 県立学校間専用のWebページとして利用できる  
この「内向けサーバ」に、山口高等学校本校及び徳佐分校専用のフォルダを作成して、「ftp」という特殊な手法でデータのやり取りを行う  
(専用のユーザ名・パスワードを設定)

この専用フォルダを、インターネット閲覧で見つかったりアクセスしたりすることは不可能  
この専用フォルダへのデータの保存は、必要な時期に限定し、データ自体にもパスワードを設定することで、セキュリティをより強化する

このシステムの構築(専用フォルダ及びユーザ名・パスワードの作成)は、ysn21ヘルプデスクの保守作業内の対応で可能(新たな経費負担はない)